

# 小樽の将来像 六本柱

## 市総合計画 審議会が初会合

小樽市のまちづくりの指針となる次期市総合計画の策定に向けた審議会の初会合が30日、市消防庁舎で開かれ、市は計画の構成案として将来像を描く六つの柱を示した。

同計画は2019年度から10年間の市の姿を描いた最上位の計画。市が目指す将来像を示した基本構想と主要な事業を示した基本計画で構成される。審議会は森井秀明市長の諮問機関で、学識経験者や公共団体の役員、市議、公募した市民ら35人で行われ、市が作成する基本構想と基本計画を審議し、市長に答申する。総合計画は19年4月に完成

する見通しだ。

市が示した六つの柱は①安心して子どもを産み育てることのできるまち②誰もがいきいきと健やかに暮らせるまち③強みを生かした産業振興によるにぎわいのまち④生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち⑤まちなみと自然が調和し、環境にやさしいまち⑥生きがいにあふれ、人と文化を育むまちとなっている。

また、審議会は小樽商大の和田健夫学長を会長に選んだほか、4月に基本構想の原案について諮問を受けた後、産業振興や都市・環境など4分科会を設置し、具体的な内容を議論するこ

2019年度から10年間の小樽市の姿を描く市総合計画の審議会初会合



とも決めた。

(西出真一朗)

◆荻野・小樽商大特任教授がきょう最終講義 特高警察など戦前・戦後の治安体制を研究してきた荻野富士夫・小樽商科大特任教授(日本近現代史)の退職記念最終講義が31日午前10時半～11時半、同大3号館2階、210講義室で行われる。

荻野さんは、早稲田大助手を経て1987年に小樽商大へ。助教授、教授を経て16年から特任教授。3月末で退職する。最終講義では「小樽・小樽商大における30年を振り返って」と題し、プロレタリア作家、小林多喜二ゆかりの小樽に根ざした研究や、政治・社会との関わりについて話す。

無料。学外の人も聴講でき、申し込み不要。

# 小樽の観光振興考える

## NPOがシンポ 法人設置や構想議論

【小樽】小樽の観光振興をテーマにしたシンポジウムが27日、小樽経済センターで行われた。観光庁が推進するDMO（観光地域づくり推進法人）設置を視野に入れた振興策や各種構想について意見を交わした。

シンポジウムは2部構成。第1部では、OBMの石井伸和理事が観光税の導入や地場産業の私設ミュージアムなどいくつかの構想を提言した。

第2部では小樽市や小樽観光協会、小樽商大などの関係者5人が、観光活性化の戦略策定を担うDMOをテーマに議論。「昨年4月に市の観光振興室と観光協会を同じ建物内に置いた」



DMOについて話し合ったパネル討論

「観光を含めたまちづくりの戦略が必要」「小樽は全

国区のブランド。さらに世界に向けて発信していかなければならぬ」などの意見が出た。(渡辺佐保子)